



発行 NPO法人シャローム事務局 〒960-1241 福島県福島市松川町字東原17-3
 TEL/FAX024-567-5322
<http://nposhalom.net/> info@nposhalom.net 発行責任者 大竹静子

平成22年定時総会終わる！

シャロームの定時総会は、5月29日まちなか夢工房2階のオアシス広場において開催され、議事は、21年度の事業報告・決算報告、22年度の事業計画・予算案と進められ満場一致で承認されました。

事業報告の中から、21年度の特徴をいくつか上げてみると、まず10月から開始された「福島県ふるさと雇用再生特別基金事業」による「ユニバーサルデザイン製品等開発及び開発支援事業」が上げられます。私たちは、ユニバーサルデザインを「すべての人が安心して暮らせる社会」を目指すことと広く捉え、ものづくりにから地域づくりまでさまざまな事業を始めています。「売れる授産製品をつくる」をテーマにワークショップを行い、成果品をもとに報告・展示会を開催、生協いずみ店の授産製品コーナー「スペース・ラブリ」をリニューアル、アンテナショップとしての活用を進めています。また、地域で支える

施設づくりを目指し、このための重点支援施設に「もちづりワーク」を選定しております。支援のあり方を検討することを目的に周辺地域の事前調査も行いました。調査報告書を作成し、もちづりワークや市に提出しています。これをもとに今後の事業は検討されていきます。施設が地域コミュニティ再生の核として機能することができるとか。これからの事業展開に興味を持って見守って頂きたいと思えます。

シネリテラシーという新しい手法での映画づくりによる第2作目「青の道」が「JT日本たばこ産業」の助成で完成しました。また、こむこむでのプラネタリウム番組「あの日の星空」が「福島市協働のまちづくり事業」の助成を受けて製作されました。映像の製作をワークショップとして進めることで、参加者のコミュニケーション能力を高める効果に注目され、世界的に教育現場に取り入れられて

います。この動きの中で注目していきたい部門です。今期は、シネリテラシーの知識の普及のための活動が多くなると思います。6月には、福大でシンポジウムも行われます。

まちなか夢工房は、10月で7周年を迎えます。多くの実習生を受け入れその役割は年々増してきています。毎月開催の「地元学を考へる」も今年度1年間の講師がすでに決まりました。「共に生きる仲間たちのコソサート」も例年通り開催の予定です。

昨年度の成果を受けて、今年度の事業の多くがスタートしています。UDセンターは2年目を迎えより充実した事業展開を予定しています。その他についても多くが継続的に行われます。新規事業として、今年がマザーテレサ生誕百周年であることを記念する映画祭をフォーラムで開催する計画がなされています。

今年も多くの事業を行っていきます。今年度もみなさんとともに楽しく活動していきましょう。

愛のメモ帳

5月の連休、晴天に恵まれ、行楽地は人出の話が。つい先日の桜が咲く中での大雪。今度は、30度を超す真夏日。なかなか体がついていけない。体は正直で、年とともに無理がきかなくなる。3月頃から、足腰が痛くやつとの思いで歩いてきた。最近は大いぶ良くなってきたが、少し長く立っていたりすると痛みが残る。歩くことに何の疑問も持たずにいた半年前。当たり前のことのように登山を楽しんでいた。失うことで知る大切さ。知識で知ることと体で体験することの違いを知らされる。当たり前のように季節がめぐり、自由に活動できることの大切さとすばらしさと思う。人間も自然の営みとともに生かされている。空気が、水が、太陽が、当たり前のように恵みを与えてくれている。火山の大噴火でそれも一瞬にして崩れる。身近な自然の恵みに感謝し守っていかねば。のんびり過ごす我が家の時間が、なぜか新鮮に思えてくる。

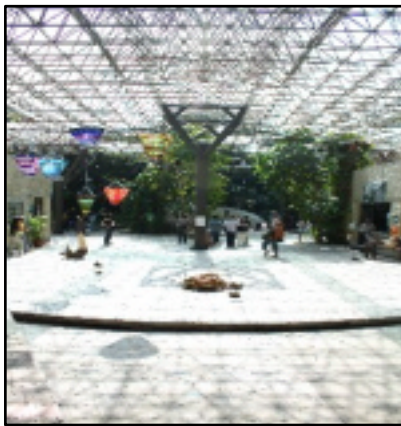
(T.O)

ROOT

(その3) ~シャロームではメキシコ在住の彫刻家・保住将文氏と毎年石彫ワークショップを行っています。氏からメキシコに渡るきっかけ、彫刻にかける想い等エッセイを寄稿いただくことになりました。数回に分けて掲載いたします。

2010年1月8日朝5時、チャパスの実家をあとに私の妻と息子と車を借りてメキシコ市に向いました。途中、田舎のレストランに寄りました。そこで事件が、、、。コンソメスープとご飯に目玉焼きが乗ってる昼食を取りました。御腹が減っていたのでおいしくいただき、小一時間走り、次のパーキングに寄ってカプチーノを飲んだ時です。急にめまいがして歩けなくなりました。こんな経験は始めてでとても驚きました。何とか気を取り直しそこを出発しましたが、高速道路でめまいと吐き気で側道に止め(あぶなかった!)降りたとたん怒涛のような吐き気と共に爆発!(後にご想像にお任せします。)

その後は、何度も車を止めては吐き、休み休みやっとメキシコ市の家にたどり着いたのが夜中の12時!家族共々(うちの犬も一緒だった)ぐったり。それから二日間は寝たきりで医者に行く気力もなく一昨日やっとお医者さんに係りました。



どうやらサルモネラに近い菌にやられたらしいことが判明。今日は朝7時バスでここチャパスに着き、大学に出勤、会議に出てからふらふらと目眩を抑えてかろうじて家に帰り着きました。昨日からは食事も普通に取っていますが、この1月1日から肉食をやめたのでやさいと海産物、卵もチーズ、それと豆類の食事です。皆さんもメキシコに着たらやたらその辺のレストランで食べずにちゃんと確かめてから入りましょう。

つづく

保住さんは今年も来福予定です。石彫りワークショップ楽しみですね。

第二次世界大戦時、これらの建物のうちいくつかは連合国の人間

第76回地元学を考える「福島市内にあるキリスト教建築物について」講師 紺野滋氏
4月24日の第76回地元学は、講師にあら福島市の代表を務める紺野滋氏を招き、福島市内にあるキリスト教建築物について、写真を見ながら学んだ。福島市内には歴史のある建物がたくさんあり、そのなかで今回は教会や旧修道院など、キリスト教関連の建物について話された。これらの建物はアメリカ人のウィリアム・メレル・ポリーズや、チエコ人のスパーガなど著名な建築家作の建物が多く、当時の技術の粋を凝らしてつくられている。展示してあった写真をみると、設計に日本の工法を取り入れており、和洋折衷の独特な趣があった。

折町についての話もあつた。自分たちの住んでいる場所ので昔何があつたのか、その結果何が残っているのかを意外と知らないものである。歴史を学ぶため、これらを保存し後世に伝えていくことは必要だと思ふ。

(文責 玉川)

第78回「地元学を考える」のご案内 「“嘘と笑い”の効用について」

講師 清水 修二氏 (福島大学副学長)

22年6月26日(土) 午後1時半より3時まで
まちなか夢工房2階 オアシス広場にて

参加費 500円

講師プロフィール

1948年生まれ

京都大学大学院終了

1980年福島大学経済学部にて赴任

経済学部長などを経て現在同大学理事・副学長

ふくしまNPOネットワークセンター理事

専攻: 財政学、地域論、NPO論



第77回地元元字を考える「仏画と布かたり展示と体験」
 講師 海老沢東山氏 海老沢朋水氏
 5月16日の第77回地元元字では、仏画師の海老沢東山さんと、書家の海老沢朋水さんのお二人を招き、「仏画と布かたり展示と体験」という題で講演をしていただきました。仏画コースと写経コースに分かれて、参加者はそれぞれについて体験しました。僕は少し迷いましたが、写経コースを選択しました。写経コースでは般若心経の写経をしました。初心者の僕は、薄く印刷された般若心経の上から

なぞることによって写経を体験しました。普段筆を握ることがないので、ボールペン等とは違う独特の使用感に戸惑いながら作業しました。なぞるだけなので、比較的簡単にできるものだと思います。文字が細かく、筆の力加減を間違え、線がつぶれてしまうことが多々ありました。結局半分ほどまで進めたところで時間が終了しました。会場には講師のお二人の作品が展示されていました。時間の最後にその中の一つである仏画の「観心十界図」について、講師の海老沢東山さんから説明がありました。普段見ることもないこれらの作品をまじかに見ると、妙な気持ちになりました。今回写経の体験をしましたが、普段般若心経という言葉は聞いたことがあっても、それがどういったものであるかは知りませんでした。漢字の羅列であまり読めず、写

経中にも僕が今何を書いているのかをはっきりと自覚せずに行っていました。今度調べてみたいですね。
 (文責 玉川)

大波桜ウォークに参加して



4月11日、福島市の大波地区において、ウォークイベント、「大波桜ウォーク」が行われた。シャロームからはUDセンター職員各位、シャロームのボランティアの方々、そして、今年度よりの新事業開始にあたって東部地区の事前調査に協力して頂いている、農山村定住促進研究所の吉沢保貴氏が参加した。参加者

は二百人を超え、広場は子供からお年寄りまで多くの人で賑わった。午前9時になると、イベントを主催した大波桜ウォーク実行委員会、佐藤俊道委員長により開催にあたっての挨拶が行われ、その後、委員会と地元の消防団の方々の誘導によって参加者全員が広場を出発し、東方面へ向かった。春を迎え、咲き始めたばかりの桜や梅、菜の花など自然を楽しみながら農道を歩いた。また、道中では少子化によって統合され、今や40名ほどになってしまったという大波小学校や、地元の主婦の方々によって野菜の販売が行われ、大変好評な「かあちゃん市」市場、地中に埋められているという財宝の伝説など、大波地区の様々な地勢風俗について佐藤氏の解説を受けた。途中3キロほど移動したところで、折り返し地点となる住吉神社に到着した。神社を出たあとは西

へ向かったが、来た道を引き返すのではなく、国道115号線を越えた向かい側の小径を通り、大波城跡へ向かうという約5キロのコースを通った。来た道と違い、こちらは緩やかな傾斜を継続して上るかたちになっており、ペースが落ちる参加者も見掛けられた。やがて国道を左手に見下ろすようになると、右手には桜が満開の上屋敷山が間近に迫り、実に見事な景観が堪能できた。そのまま右側へ曲がって旧国道を通り、ぐるっと後ろから回り込むかたちで古戸の大波城跡へと上った。城の跡地といっても、ここに城があつた痕跡は何もなく、専門家の間でも実際の城の場所や由来については様々な学説が存在するらしい。(ここではなく、大波城は下小国と大波の境の丘陵に位置していたとする説もある。)戦前の漢学者であり、陵墓・南北朝争乱の研究

家でもあつた平野冷堂氏による「大波城跡」碑が明治10年に建てられ、今に残っている。碑の高台の下は広場になっており、上り坂を登り終えた桜ウォーク参加者は、暖かい豚汁とおにぎりで迎えられた。ウォークはここで終わりとなったが、昼食を終えた後、参加受付時に配られた地図に付いている番号を使い、抽選会が行われた。早朝からのウォークということだったが、道も歩きやすく、景色も素晴らしかったので、8キロという距離を長く感じることはなかった。今回は車で通るのではなく、実際に大波の土地を自分たちの足で歩き、また、資料からではなく実際に土地に住む方から情報を得ることができた。多少なりと見聞を深めることができたという意味でも、参加して実りのあるイベントだったと思う。(文責 赤間)